

2 0 2 4 年度

試験問題

問題 1 ~ 問題 47

【問題１】鉄筋コンクリート構造に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 燃えない耐火性に優れた構造である。
2. コンクリートが鉄筋の酸化を防ぐため、腐食しにくく、耐久性に富む構造である。
3. 剛性が高く、耐震性に富む構造である。
4. 施工管理の良否は、建築物の強度にあまり影響を与えない構造である。

【問題２】地盤と基礎に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 地盤がシルト・粘土の場合は、透水性が大きく、荷重が加わると同時に圧密が終わり沈下量も少ない。
2. 飽和した土に圧力が継続的に加わる場合、間隙水の排出によって圧密が生じ、不同沈下の原因となる。
3. 液状化は、地下水位の高い砂質地盤で地震時に起こりやすく、地盤の支持力がほとんどなくなり大きな被害を受けることになる。
4. 同一建物で、異なった基礎形式を採用すると建物に不同沈下が生じることがあるので、原則として同一建築物には異なる構造方法による基礎は併用しない。

【問題3】コンクリートの調合に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 水セメント比とは、コンクリート中のセメントに対する水の重量（質量）比である。
2. 水セメント比を大きくすることにより、密実なコンクリートとすることができる。
3. 空気量が少なくなると、一般的に強度は低下する。
4. スランプ値が小さいほど流動性はよいが、付着強度の低下や乾燥収縮などを招きやすくなる。

【問題4】外装用建築用仕上塗材の種類に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 外装薄塗材 Si で、ゆず肌状にローラー塗りで仕上げるために主材の所要量を 0.6 kg/m^2 以上 2 回塗りとした。
2. 外装薄塗材 E で、さざ波状にローラー塗りで仕上げるために主材の所要量を 0.6 kg/m^2 以上 2 回塗りとした。
3. 複層塗材 CE で、ゆず肌状にローラー塗りで仕上げるために主材の所要量を 0.6 kg/m^2 以上 2 回塗りとした。
4. 可とう形改修塗材 CE で、さざ波状にローラー塗りで仕上げるために主材の所要量を 0.8 kg/m^2 以上 1 回塗りとした。

【問題5】防水工事の種類と特徴に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. アスファルト防水は、合成高分子系シート防水と比較して材料の変形能力が大きいいため下地の動きに対して比較的安全である。
2. 塗膜防水は、塗布によって防水層を作るため自由な形状の屋根に対応できる。
3. 合成高分子系シート防水は、防水層が厚いため性能が安定している。
4. ステンレスシート防水は、連続した防水層を作ることができ、複雑な納まりの施工が容易である。

【問題6】JIS（日本産業規格）にて規定されているアルミサッシの性能に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 耐風圧性とは、サッシがどれくらいの風圧に耐えられるかを示す性能であり、等級が大きいほど耐風圧性が高い。
2. 気密性とは、風を伴う雨に対する防水性を示す性能であり、等級が大きいほど漏水危険率は低い。
3. 遮音性とは、どれくらいの音まで遮ることができるかを示す性能であり、等級が大きいほど遮音性が高い。
4. 断熱性とは、サッシを通して流れる熱を遮る量を示す性能であり、等級が大きいほど断熱性が高い。

【問題 7】マンションの給排水設備に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 屋内受水槽の周囲は、水槽の点検スペースを確保する必要があるが、水槽上部は 100cm 以上のスペースを確保する。
2. 非常時に備えて水道水を給水する管に井戸水からの給水管を接続する場合には、仕切弁を設置する。
3. 給水ポンプを直接基礎に固定する場合には、ポンプと配管の接続部に可とう継手などを設置して地震等の変位を吸収する。
4. ウォーターハンマーとは、給水中の水栓や弁を急に閉じた時に、それまで流れていた水が管内各部に衝突することにより生じる衝撃音、振動をいう。

【問題 8】マンションの電気設備に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 引き込まれる電力の契約受電容量が、100kW 未満の小規模マンションでは、柱上変圧器で単相の低圧に下げて引き込む。
2. 引き込まれる電力の契約受電容量が、高圧又は特別高圧で引き込まれるマンションにおいては、受変電設備を設け低圧に下げる必要がある。
3. 屋内配線方式で、100V 単相 2 線式は一般住宅用に用いられる。
4. マンション内に配電盤を取り付ける電気工事を行う場合は、第 1 種電気工事士又は第 2 種電気工事士が行う。

【問題 9】火災と消火設備に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 屋内消火栓設備は、消防隊が火災現場に到着し、活動を開始するまでの初期消火用で、消火栓、筒先、ホース掛けなどを壁面に取り付けた箱に収めておく。
2. スプリンクラー設備は、初期消火用で、スプリンクラーヘッド（散水口）を天井下に配置し、配管からの水を散水する。
3. 消防隊専用消火栓の連結送水管は、あらかじめ建物内に配管しておき、消防ポンプ車から注水して、消火活動を行う。
4. 火災の種類であるB火災とは、木材、紙、繊維などの一般可燃物による火災であり、冷却効果による消火が有効である。

【問題 10】建築基準法上の定義に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 共同住宅は、特殊建築物である。
2. 建築とは、建築物を新築し、増築し、又は改築することをいい、移転は含まれない。
3. 主要構造部とは、壁、柱、床、はり、屋根をいい、階段は含まれない。
4. 建築物とは、土地に定着する工作物のうち、屋根及び柱若しくは壁を有するもので、これに附属する塀は含まれない。

【問題 1 1】大規模修繕工事の資金計画に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 次回の大規模修繕工事で修繕積立金が不足することが予測されたため、修繕積立金の値上げを総会で決議した。
2. 修繕積立金の積立方式を現状の段階増額方式から均等積立方式に変更した。
3. 管理規約に規定することにより共用排水管の更新工事を行う際に付随する専有部分の排水管工事費用を修繕積立金にて負担することとした。
4. 大規模修繕工事のための劣化診断の費用を修繕積立金から支出することはできるが、長期修繕計画見直しの費用を支出することはできない。

【問題 1 2】マンションの維持保全に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. マンションの維持保全の必要性としては、建物の劣化の抑制、災害時の機能保全、都市施設としての保全などが挙げられる。
2. 建築基準法第 8 条の維持保全の対象は、敷地、構造及び建築設備とされている。
3. 特定行政庁は、建築基準法令などに違反した建築物の管理者等に対して、当該建築物の除却、修繕、使用制限等必要な措置を命ずることができる。
4. 特定行政庁は、マンションの敷地、構造又は建築設備について、損傷、腐食等の劣化が生じ、放置すれば保安上危険と認める場合には、管理者等に対して、マンションの除去を命ずることができる。

【問題 1 3】鉄筋コンクリートの劣化に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 剥落とは、コンクリートの伸縮や許容応力度以上の応力の作用により生じた配筋の位置に多発する症状である。
2. コンクリートの中性化とは、コンクリートが空気中の炭酸ガスなどの作用によって、アルカリ性を失っていく現象である。
3. 鉄筋腐食とは、コンクリートの中性化やひび割れ、漏洩電流などにより鉄筋が発錆する現象である。
4. ポップアウトとは、コンクリート内部の部分的な膨張圧によって円錐形のくぼみ状に破壊される症状である。

【問題 1 4】外壁タイル面の補修工事に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 斜壁部分のタイル張り面の浮き補修については、タイル下地に防水層が施されている場合があるので、工事着手前には下地の調査が必要である。
2. タイル部分張替えは、張付けモルタルを含めた欠損の場合に適用するものであり、一般的に1箇所当たりの面積が1.0 m²程度以下を対象とする。
3. タイルの張替えに際して、下地コンクリートの表面の目荒らしを行って付着力を上げる工法は躯体への影響があり、避けるべきである。
4. 梁底タイルの補修工事においてタイルの落下事故を防ぐためには、乾式工法は適さない。

【問題 1 5】塗装面の補修工事に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. バルコニーや開放廊下などの軒裏の塗装を行う場合は、上階床面から浸透した水分の処理を考慮して防水性のある塗装材料を選択する。
2. 紫外線の影響を受ける外壁塗装面と他の塗装面とでは、一般的に塗膜の劣化の進行に大きな違いはない。
3. 塗装作業を避けるべきとされている条件は、一般的に気温 0℃以下、湿度 85%以上とされている。
4. 補修工事で既存塗膜を塗り替える場合は、塗膜の適合性が重要であり、前回施工の材料の確認が必要である。

【問題 1 6】屋上防水の劣化状況調査に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. パラペット天端のひび割れからの雨水の浸入が、下階への漏水事故につながることはない。
2. 防水層立上りの端部押え金物のシーリングの劣化が、下階への漏水につながることはない。
3. アスファルト防水保護コンクリート押え工法の場合、表層部の調査で下階の漏水事故の原因を特定することは可能である。
4. 排水ドレン金物と防水層の接続部分は、接合幅や接着状態などの調査が重要である。

【問題 17】シーリング工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. やむを得ず既存シーリング材の上に新規のシーリング材を施工する場合には、一般的にボンドブレイカーを使用する。
2. 不要な場所にシーリング材が付着しない目的で使用するマスキングテープは、シーリング材の硬化後に剥がす。
3. シーリングを施工する目地には動きのあるものとなないものがあるが、目地底にボンドブレイカーを入れて二面接着の形にすることで、動きのある目地でも適用可能となる。
4. 同一部材の接合部に使用されるシーリング材には、水密性、気密性が要求され、接着を高めるために、プライマーを併用する。

【問題 18】外壁回りシーリングの修繕工事においてワーキングジョイントに該当する部位として最も不適切なものはどれか。

1. EXP. J の金物回り目地
2. コンクリート下地のタイル目地
3. 金属建具のガラス回り目地
4. 金属建具の建具間目地

【問題 19】給水設備改修工事に使用される配管材料に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 水道用ポリブテン管は、耐熱性、耐食性に優れ、高温でも内圧強度の高い配管である。
2. 水道用ポリエチレン二層管は、柔軟性があり、凍結破壊に強く、傷がつきにくい配管である。
3. 水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管は、鋼管に塩化ビニルでコーティングしたものであり、管端が露出すると錆びるので管端防食継手を使用する。
4. 一般配管用ステンレス鋼管は、通常 SUS304 が使用され、耐食性は高く、メカニカル継手が主である。

【問 20】設備関連改修工事の申請・届出等に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. エレベーターの大規模な改修工事である「完全撤去一括改修」は、一般的に建築基準法上の確認申請を必要とするが、各特定行政庁により見解が異なる場合もあるので確認が必要である。
2. 工事計画届を必要とする電気工事は、電気工作物の設置者が着工 7 日前までに計画届を提出しなければならない。
3. 消防用設備の防火対象物使用開始届は、建物所有者が使用開始までに開始届を提出しなければならない。
4. 給水装置工事申請は、施工者が着工前までに水道事業管理者に提出しなければならない。

【問題 2 1】国土交通省が公表している「長期修繕計画作成ガイドライン」に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 大規模修繕工事は、建物及び設備の性能・機能を新築時と同等の水準に維持、回復させる修繕を基本としている。
2. 長期修繕計画は、10年程度ごとに詳細にわたる調査・診断を行い、その結果に基づいて計画を精査することが重要である。
3. 長期修繕計画見直しにおける各工事項目の設定に関しては、修繕計画期間外に予測される工事の費用に触れることは特に必要としない。
4. 管理組合は、長期修繕計画の見直し及び修繕積立金の額の設定に当たって、総会の決議は必要としない。

【問題 2 2】マンションの専有部分と共用部分に関する次の記述のうち、建物の区分所有等に関する法律及びマンション管理標準指針（国土交通省）に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 区分所有権の目的である建物の部分を専有部分というが、この部分を規約で共用部分とすることは可能である。
2. 数個の専有部分に通ずる廊下や階段室、その他区分所有者の共用に供される建物の部分は、専有部分とならない。
3. 専有部分の排水管に関して、上階住戸のスラブ下に施工されている上階住戸が使用する排水管は、専有部分扱いとされる。
4. 共用部分に対する各共有者の持分は、その有する専有部分の床面積の割合によるのが原則であり、その床面積は壁その他の区画の内側線で囲まれた部分の水平投影面積である。

【問題 2 3】マンションにおける次の工事のうち、集会において区分所有者及び議決権の各過半数の議決（普通決議）で可能なものは、マンション標準管理規約（単棟型）コメントによればどれか。

1. 建物の躯体部分に相当程度の加工を要する光ファイバー・ケーブルの敷設工事
2. 集会室の大規模な増改築工事
3. 柱に炭素シートや鉄板を巻きつけて補修する耐震補強工事
4. 建物の外壁に新たに設置するエレベーター工事

【問題 2 4】労働安全衛生法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 事業者は、労働者を雇い入れたときは、当該労働者に対し、その従事する業務に関する安全又は衛生のための教育を行わなければならない。
2. 安全管理者を選任しなければならないとされている事業場の規模は、常時 100 人以上の労働者を使用する事業場である。
3. 事業者は、労働者 50 人以上の事業場ごとに、衛生管理者を選任し、衛生に係る技術的事項を管理させなければならない。
4. 石綿をその重量の 0.1% を超えて含有する製剤を取り扱う作業は、石綿作業主任者でなければならない。

【問題 2 5】労働安全衛生規則の足場及び「くさび緊結式足場の組立て及び使用に関する技術基準（（一社）仮設工業会）」に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 作業中に物体が落下し労働者に危険を及ぼすおそれがあるときは、高さ 10cm 以上の幅木、メッシュシート、若しくは防網等を設けなければならない。
2. 足場における高さ 2m 以上の作業場所に設ける作業床の幅は 30 cm 以上とし、床材間のすき間は 3 cm 以下とする。
3. わく組足場は、最上層及び 6 層以内ごとに水平材を設ける。
4. マンションの改修工事に使用するくさび緊結式足場は、住宅工事用くさび緊結式足場である。

【問題 2 6】騒音規制法及び振動規制法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. 特定建設作業として定義されるものは、著しい騒音、振動を発生する作業であって政令で定めるものであるが、当該作業が作業開始日に終了するものは届出が不要である。
2. 改修工事で一般的に使用する電動ドリルは、騒音規制法及び振動規制法の規制対象外である。
3. 指定地域内で特定建設作業を行う場合は、作業開始の 7 日前までに都道府県知事に特定建設作業実施届出書を提出しなければならない。
4. 特定建設作業を行う場合、虚偽の届出をした者は罰金に処せられる。

【問題 27】 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律の次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. この法律の目的は、事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止することである。
2. この法律では、P R T R制度とS D S制度を導入している。
3. 石綿は、S D S制度の対象物質に該当する。
4. P R T R制度では、事業者に対象化学物質の性状及び取り扱い情報の事前提供を義務づけている。

【問題 28】 大気汚染防止法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 粉じんは、一般粉じんと特定粉じんに分類されるが、どちらも健康に害を生ずるおそれがあるものである。
2. 吹付け石綿、その他の石綿を含有する建築材料を特定建築材料という。
3. 「揮発性有機化合物」は、トルエン、ベンゼン、フロン類などを指すが、あまり幅広く使用されていない物質である。
4. 「有害大気汚染物質」とは、断続的に摂取される場合においても健康を損なうおそれがある大気汚染の物質である。

【問題 29】景観法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

1. この法律の基本理念としては、良好な景観を保全することだけでなく、新たに良好な景観を創出することにも含まれている。
2. この法律における景観行政団体は、地方自治法に定められている。
3. この法律における「都市計画区域」とは、一体の都市として総合的に整備・開発し保全する必要がある区域として都市計画法に定められた区域である。
4. 景観計画区域内で建築物の外観を変更する修繕を行う場合は、行為の種類、設計または、施行方法などを景観行政団体の長に届け出なければならないが、色彩の変更を行う場合は届出を要しない。

【問題 30】建設業法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 建設業者は、その請け負ったマンションの改修工事を一括して他人に請け負わせることはできない。
2. 建設工事を請け負ったすべての建設業者は、工事現場に一定の施工実務又は資格を有する者を配置する必要がある、建築一式工事において 7,000 万円以上の下請契約の場合、元請業者は監理技術者を配置しなければならない。
3. 公共性のある施設、工作物又は多数の者が利用する施設については、工事現場ごとに専任の監理技術者を置かなければならない。
4. 建設業者は、許可を受けた建設業に係る工事を請け負う場合に、付帯する他の建設業に係る工事を自ら施工することはできない。

【問題３１】マンションの建替え等の円滑化に関する法律に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- １． この法律は、マンション建替事業、除却する必要があるマンションに係る特別の措置、マンション敷地売却事業等について定めることも目的としている。
- ２． 維持修繕が困難なマンションの再生に向けて、除却の認定の必要性の対象に外壁剥落等による危害のおそれ、火災に対する法・条例等の不適合、配管設備類の著しい損傷等が、耐震性不足に加えて拡充されている。
- ３． 要除却の認定を受けたマンションは、一定規模の敷地面積、市街地環境の整備改善を条件に特定行政庁の認可で容積率の制限の緩和が受けられる。
- ４． 要除却の認定を受けたマンションの敷地売却合意者は、合意者の４分の３以上の同意で、特定行政庁の認可を受けて敷地の売却を行う組合を設立できる。

【問題３２】住宅の品質確保の促進等に関する法律（以下、品確法という。）及び特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- １． 品確法では、新築住宅における瑕疵担保責任の特例が設けられており、売主には売買契約において住宅の構造耐力上主要な部分等について引渡しから１０年間の瑕疵担保責任が義務づけられている。
- ２． 品確法に基づく既存住宅の性能表示項目の「維持管理・更新への配慮に関すること」には、維持管理対策等級と更新対策の小項目がある。
- ３． マンション大規模修繕工事瑕疵保険の対象は、工事請負契約書に記載されている瑕疵担保責任の対象部位である。
- ４． 品確法では、住宅性能評価を受けた住宅に関するトラブルを弁護士、建築士などで構成される指定住宅紛争処理機関で対応するとしている。

【問題３３】廃棄物の処理及び清掃に関する法律と労働安全衛生法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- １． 廃棄物は、一般廃棄物と産業廃棄物に大別され、さらに人の健康又は生活環境に被害を生ずるおそれのある特別管理産業廃棄物と特別管理一般廃棄物に区分されている。
- ２． 防水工事における断熱材は、特別管理産業廃棄物に分類される。
- ３． 建設工事から排出される建設産業廃棄物は、安定型と管理型に区分されるが、どちらもそのまま地中埋立処分が可能である。
- ４． その重量の１％を超えるすべての石綿含有材料の製造、使用が２００６年に廃止となっている。

【問題３４】マンションの計画修繕工事の工事請負契約及び保険に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- １． 下請契約の契約書において印紙税は、不要である。
- ２． マンションの計画修繕工事には専用の請負契約約款があり、最近ではその約款による請負契約の締結が多くなってきている。
- ３． 建設工事保険には、特約付保によって豪雨による崖崩れ損害に対応するものもある。
- ４． 労働災害保険とは、労働者災害補償保険法に基づく制度であり、労働者を使用するすべての事業が強制的に適用となる保険である。

【問題 3 5】マンションの計画修繕工事の着工前準備と仮設工事に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. ネットワーク工程表とは、縦に各工事・作業を列挙し、横に作業や工事の実施期間を記入したものである。
2. 施工計画書の共通事項の記載において請負金額の増減を要しない軽微の設計変更は、監理者と協議のうえ行うこととする。
3. 労働安全衛生規則において移動昇降式足場は、つり足場に該当する。
4. 1,200mm 幅の標準わく組足場の 1 スパン当りの最大積載荷重は、400 kg 以下である。

【問題 3 6】マンションの計画修繕工事における下地補修工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 一般的にひび割れ幅 0.05mm 以下は、補修を必要としない。
2. 比較的深い欠損部の改修には、エポキシ樹脂モルタル充てん工法が適している。
3. 挙動するひび割れの補修にエポキシ樹脂を注入する場合には、硬質形エポキシ樹脂を使用する。
4. 鋼製手摺の支柱付根コンクリート欠損の原因としては、支柱内部の結露が原因の場合もある。

【問題３７】マンションの計画修繕工事における外装工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- １．張り代が比較的厚いタイル部分張替え工事には、外装タイル張り接着剤を用いる。
- ２．タイル先付け工法におけるタイルの浮きの多くは、コンクリートとタイルの界面で発生する。
- ３．見本板を用いて塗装工事の色彩確認作業をするときは、日中の屋外で行う。
- ４．吹付タイル（複層仕上塗材Ｅ）の塗膜付着力試験を実施したところ、 1.0 N/mm^2 だったので塗膜の塗重ね工事を可能とした。

【問題３８】マンションの計画修繕工事における防水工事に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- １．合成ゴム系防水の施工方法は、接着工法であり、機械的固定工法は適合しない。
- ２．アスファルト防水の露出断熱工法は、屋上の歩行用防水工事に適合しない。
- ３．シーリング改修工事では、環境保全の観点から、なるべく既存のバックアップ材を再使用する。
- ４．シリコーン系シーリング材は、外装材表面を汚染することがある。

【問題３９】マンションの建築改良工事及び手摺素材に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- １． アルミ手摺のアルミニウム合金は、自然酸化皮膜に覆われていることにより優れた耐食性があるので、一般的に表面処理は施さない。
- ２． 鋼製建具取替工事の撤去工法の一つである引抜き工法は、比較的騒音の少ない工法である。
- ３． 住宅性能表示制度に適合するためには、共用廊下の幅員は 1.2m 以上にしなければならない。
- ４． 住宅性能表示制度に適合するためには、スロープの勾配は 1/8 以下にしなければならない。

【問題４０】マンションの排水・通気設備に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- １． 浴室、台所、洗面室などの便器以外の器具からの生活排水を雑排水という。
- ２． 通気設備において最上部の排水立て管を更に上方へ立ち上げ、大気に開放する方式を伸頂通気方式という。
- ３． 排水立て管の最下部又はその付近には、掃除口を設置する。
- ４． 各種の排水口の直後には、臭気の逆流や害虫の侵入防止を目的としてトラップを設置するが、二重にトラップを設ける場合もある。

【問題 4 1】マンションの電気設備改修工事に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 電気工事を行う場合は、建設業の許可をもって「みなし登録電気工事業者」とされる。
2. 線ぴ（モール）による配線工事は、主にコンクリート埋設工事に使用する。
3. 住戸のコンセント取付位置は、床上 10cm 前後、若しくは 1 m 前後とする。
4. マンションの受変電設備として設置される自家用電気工作物は、一般用電気工作物に分類される。

【問題 4 2】マンションの防災設備及び改修工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 非常用エレベーターは、一般の避難経路として火災発生時等に使用する。
2. 排煙設備は、火災発生時に発生した煙が避難経路に侵入しないことを目的とするものである。
3. 消防設備の改修工事を実施する場合は、着工 10 日前までに消防長又は消防署長に、甲種消防設備士が届出なければならない。
4. 住宅用防災警報器は、10 年を目安に交換しなければならない。

【問題 4 3】マンションの情報通信設備に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 最近のテレビ端子への配線方式は、直列ユニット方式が主流である。
2. インターネット接続形態の VDSL 方式は、住棟内の既存電話回線を利用する。
3. マンションに導入される都市型 CATV では、インターネット接続ができない。
4. 地上波デジタル放送では、双方向データ通信ができない。

【問題 4 4】マンションの昇降機設備改修工事に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. エレベーターの制御機器を改修する工事の場合は、建築基準法第 12 条に基づく届出が必要である。
2. エレベーターの戸開走行保護装置の設置は新築の建物で義務付けられているが、既存の昇降機でも適用が促進されている。
3. 昇降機の昇降路内には、原則として給排水管の配管設備を設けることはできない。
4. 付加機能である地震時管制運転装置とは、地震計が地震を感知した時に、避難階に自動的に停止させる装置である。

【問題４５】マンションの計画修繕工事における居住者対応に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- １．バルコニーは専有部分であり、そこに設置されているエアコン室外機等の移動費用は原則個人負担である。
- ２．鍵を預かる場合は、プライバシー保護の観点から必ず預かり証を発行し、名簿を厳重管理とする。
- ３．仮設事務所等の窓は、原則として居住者の居室側には設置しない。
- ４．請負業者が行う住民への工事説明会は、着工直近の休日に開催するのが好ましい。

【問題４６】コンクリートのひび割れの原因に関して「コンクリートの強度不足」以外で考えられる原因を５つ解答欄に記述しなさい。

解答欄

1.
2.
3.
4.
5.

【問題４７】マンションの大規模修繕工事において特定建設業者である元請負人には、下請け工事への実質的な関与が義務付けられているが、平成２８年の国土交通省の通知にて定められている役割の中から５つ解答欄に記述しなさい。

解答欄

1.
2.
3.
4.
5.